



令和 7 (2025) 年 11 月 11 日

校長だより Vol.9

同じ星を見て歩いていきましょう!⑧ ～ 非認知能力が大切な理由 ～

「認知能力」と「非認知能力」の違い

○認知能力…数値で測れる学力や知能

・記憶力、推論力、問題解決能力など。(計算力、読解力、思考力、集中力、記憶力、言語能力)

○非認知能力…数値化が難しい心の力や内面的な特性

・性格特性、意欲、態度などの内面的な心の力。(行動様式に関する能力)



非認知能力はなぜ大切なのか ～ 9～10 歳はとても重要な時期 ～

数値で測ることが難しい、意欲、協調性、忍耐力、自己肯定感など、生きていく上で重要な内面の力を指します。

これらの能力は、乳幼児期から学齢期、もちろん大人になってからも、後天的な関りによって発達していきます。



家庭でできること ～ 保護者との日々の関わりが大事 ～

●子どもの興味や自主性を応援する。

- ・子どもが「やってみたい」と思ったことを積極的に挑戦させ、見守ること。
- ・子どもの選択を尊重し、「自分で決める」経験を重ねることで、自己決定能力や自立心が養える。

●プロセスを褒める。

- ・結果よりも、目標に向かって努力する過程を具体的に褒めることで、子どものやる気や自己肯定感を高める。
- ・失敗を恐れず挑戦できるよう、失敗したときも前向きな声かけてサポートする。

●日々の生活に「遊び」を取り入れる。

- ・友達や家族との遊びを通して、コミュニケーション能力、協調性、創造性、問題解決能力が育まれる。
- ・ごっこ遊びや積み木遊び、自然遊びなどは、想像力を養うのに効果的。

●家庭での役割を与える。

- ・お手伝いをさせることで、責任感や自己肯定感が育まれる。・多様な人との交流を促す。
- ・親戚や近所の人、友達など、さまざまな人と関わる機会を作ること、コミュニケーション能力が向上する。

人間の気質と非認知能力、活性化する年齢

人間の気質と非認知能力の関係

● 気質は生まれ持った特性

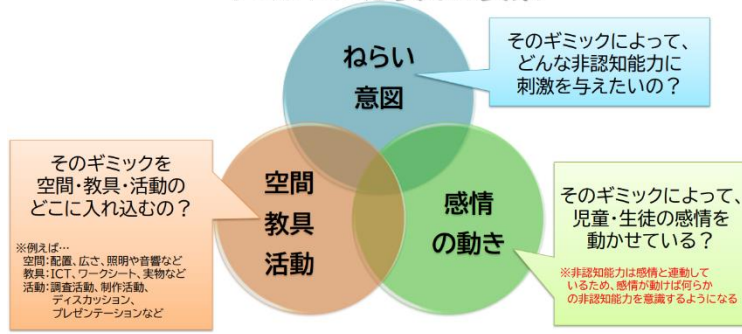
- ・気質とは、生まれつき備わっている反応パターンや行動傾向のことです。
- 例えば、「人見知りをしない」「新しい環境に慣れやすい」といった個性のことです。

● 気質は非認知能力に影響する

- ・生まれ持った気質は、その後の非認知能力の発達に影響を与えます。
- 例えば、好奇心旺盛な気質の子は、多様な経験を通して非認知能力を伸ばしやすいと考えられます。



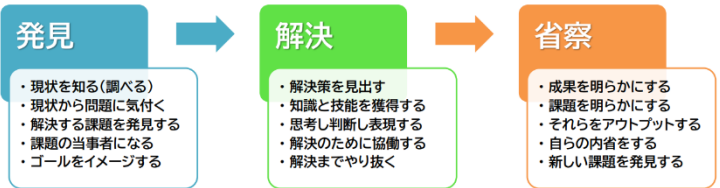
目指したいギミックは「心動かす仕掛け」 —ギミックに必要な3要素—



総合的な探究＝PBLという最強ギミック

総合的な探究の柱となるPBL:プロジェクトベースラーニングの略称

生徒自身が現状から問題に気付く、解決したい課題を発見する
自ら設定した課題解決のために認知能力や思考系能力を高めながら、生徒たちと協働し、やり抜く
成果と課題を明らかにしてアウトプットしながら、これまでのプロセスを内省する
そして、新しい課題を発見して…



※【資料使用の許可を得ています。】

学校でできること ～ 高校が授業を中心に取り組んでいけること ～

学校では、教科の学びだけでなく、社会性や情動面の発達を促す学習環境を整えることが求められています。

● 協働学習を導入する。

- グループワークやディスカッションなどを通して、他者と協力する力やコミュニケーション能力を養う。
- 探究的な学習課題を提供する。 (「活動」あって「学び」なしに陥らぬよう)
- 答えのない問いに対し、自ら考え、調査し、表現する学習は、主体性や思考力を育む。
- 失敗を学びの機会ととらえる。
- 生徒が失敗したとき、それを乗り越えるためのサポートをすることで、忍耐力や立ち直る力が養われる。

● 肯定的なフィードバックを行う。

- 結果ではなく生徒の努力(過程)を認め、肯定的な声かけをすることで、自己肯定感や学習意欲を高める。
- 体育祭や文化祭、HR 活動などの特別活動や、総合的な探究の時間(ともえタイム)で、協調性や創造性など、**非認知能力**を育む。

● 「授業づくりは人づくり」そして、「人づくりは授業づくり」です。

生徒の学校生活の7～8割は授業です。

- 各教科の先生方が、単元構想をしっかりと練り、一時間の授業で何を学ばせたいのかを明確にする。
- Gimmick(心を突き動かす仕掛け)を用意する。

人間の原動力は感動だ!

芸術やスポーツ、また、バーチャルではなくライブな体験には、無条件に人を感動させる力があります。美しい絵や音色に接したことで浄化される心。

手に汗握る緊張感や自分の想像を超越するパフォーマンスに魅了されることで、人の心は突き動かされます。

日々の生活の中で、自らの原動力となるような「感動」は、どのような場面で味わうことができるでしょうか。

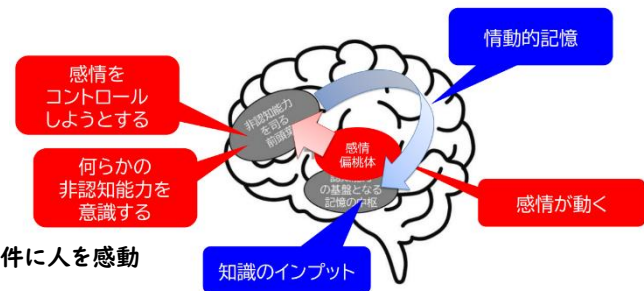
それは、間違いなく授業です。だからこそ、私たち教員は一時間一時間の授業を大切に考え、『?』が『!』に変わるような、生徒の気づきや驚きを促す授業改善を、恒常的に行っていく必要があるのです。

Gimmick(心を突き動かすような仕掛け)がない授業では、**非認知能力**と**認知能力**を育てることはできない。

- 「Gimmick のない授業に感動など起こらない。」
- 「感動が起こらない授業には、**非認知能力**が育つ場面はない。」(印象深い中山芳一氏(前出)の言葉です。)

毎回の授業で一つの講演を作るような大掛かりな準備は出来ませんし、いつも上手くいくとは限りません。それでも、「次こそは!」と新米もベテランもなく、まずは私たち(教員)自身が『面白い』、『楽しい』と感じたことをGimmickとして授業に構成し続けていくことこそが、「授業づくりは人づくり」を実現することに繋がると思います。

感情を動かすことができれば……



『教師のための「非認知能力」の育て方』2023年、明治図書